

NO.	読了	所有	索引	書名	出版社	出版年月	備考	読了日
1.	●	有	あ	青い骨	角川文庫	1976.4	短編 処女作品集 死体 さよと僕たち 青い骨 白い虹 白衣 墓地の賑い 死んでしまったものの、失われた痛みの、ひそやかなふれあいの、言葉にならぬため息の…。ふと目をあげて遠くを眺めたい気持ちを起こさせる6つの短篇。若き吉村昭が自費出版した幻の名作が今蘇る。	2000/7/15
2.	●	有	あ	赤い人	講談社文庫	1984.3	石狩川での集治監の歴史	
3.	●	有	あ	暁の旅人	講談社	2005.4	幕末の長崎で西洋医学を学び、維新に揺れる日本で医師として自らの信ずる道を行く人・松本良順。医学の道に身を捧げた彼の数奇な運命に光を当て、その波乱と孤高の生涯に迫る感動の歴史長編小説。	2008/11/28
4.	●	有	あ	秋の街	文春文庫	1992.4	短編 秋の街、帰郷、雲母の柵、赤い眼、さそり座、花曇り、船長泣く 一六年ぶりに刑務所の外を歩いた無期刑の囚人、死をまぢかにして故郷への執念に憑かれた重病人、変死体の解剖に日々従事する検査技師、十数万匹の実験用マウスを飼育する研究所員、漂流船に最後まで生き残った船長と船員一人。生のゆきつく果てを見た人々を衝き動かす、不可解な心の力学を描き出す小説集。	2000/4/3
5.		有	あ	味を追う旅 (原題味を訪ねて)	河出文庫	2013.11		
6.		有	あ	味を訪ねて	河出書房新社	2010.1	取材先で出合った、地元の人しか知らない路地裏の味。	
7.	●	有	あ	アメリカ彦蔵	読売新聞社	1999.10	幕末 浜田彦蔵 船の難破でアメリカへ	2001/4/2
8.	●	有	い	碓星(いかりぼし)	中央公論社	1999.2	短編 飲み友達 喫煙コーナー 花火 受話器 牛乳瓶 寒牡丹 光る干潟 碓星	2000/3/26
9.	●	有	い	一家の主	毎日新聞社	1974	自伝的エッセー	2001/7/22
10.	●		い	彩られた日々	筑摩書房	1969.10		2009/4/30
11.	●	有	う	海の絵巻	新潮社	1978.4	動物小説集 海の絵巻、紫色幻影、おみくじ、光る鱗、緑藻の匂い海の絵巻、紫色幻影、おみくじ、光る鱗、緑藻の匂い	2001/5/27
12.	●	有	う	(海の壁) 三陸沿岸大津波	中公新書	1970.7	後の1984年に、「三陸沿岸大津波」と改題	2001/6/7
13.	●		う	海の奇蹟	角川文庫	1974.9	海の奇蹟、鷺、貝の音、野犬狩り 兄の顔から血の気がひいていた。次郎は、無言で差し出された除き桶を手にし、舟べりに膝をついてガラス板の中をのぞいた。水底の岩礁のくぼみに海草のようにゆらいているのは、たしかに、白いスカートの裾だった……。女の死体発見にまつわる、一漁村の異常な体験を描く表題作ほか、「鷺」「貝の音」「野犬狩り」の三作品を併録、野心的題材を扱って、著者の文学的力量を示す秀作集。	
14.	●	有	う	海の祭礼	文藝春秋	1989.11	1848年、ペリーの来航の五年前、まだ鎖国の眠りのただ中であつた日本に憧れたアメリカ人がいた。彼は捕鯨船員として日本に近づき遂にポートで単身尻尾島に上陸を果たした。その名は、ラナルド・マクドナルド。彼の奇妙な体験を追い、それに続く開国へ向けての意外ないきさつを描いた、白眉の長篇歴史小説。	
15.	●	有	う	海の史劇	新潮文庫	1981.5	祖国の興廃をこの一戦に賭けて、世界注視のうちに歴史が決定される。ロジェストヴェンスキー提督が、ロシアの大艦隊をひきいて長征に向う圧倒的な場面に始まり、連合艦隊司令官東郷平八郎の死で終る、名高い《日本海海戦》の劇的な全貌。ロシア側の秘匿資料を初めて採り入れ、七ヶ月におよぶ大回航の苦心と、迎え撃つ日本側の態度、海戦の詳細等々を克明に描いた空前の記録文学。	
16.		有	う	海の鼠	新潮社	1973		
17.	●	有	う	海も暮れきる	講談社	1980.3	さすらいの俳人・尾崎放哉の凄絶な死。咳しても一人 之でもう外に動かないでも死なれる 肉がやせて来る太い骨である いったんはエリートコースを歩みながら、やがて酒に溺れ、美しい妻に別れを告げ流浪の歳月を重ねる。小豆島で悲痛な死を迎える放哉の生涯を鮮烈に描く。	
18.	●	有	え	縁起のいい客	文藝春秋	2003.1	ひたむきに求め、きつぱりと諦める。「熟慮冷論」を信条に、無理をせず自然体で生きる著者。常に精緻な取材と真摯な姿勢で作品に向き合う作家が綴った、心にしみる待望の最新エッセイ集。	2003/7/27
19.		有	え	炎天	筑摩書房	2009.7	吉村昭著、津村節子編 エッセイと俳句	

NO.	読了	所有	索引	書名	出版社	出版年月	備考	読了日
20.	●	有	お	お医者さん・患者さん	中公文庫	1988.3	幼いころの記憶の底に、だれでもが懐しく抱いている、威厳とやさしさにあふれた町のお医者さん。みんなに敬愛されていたあの人は、どこに行ってしまったのか。患者にとつてのよい医者、医者からみたよい患者とは？子供時代の病気の思い出、二十歳からの大病の体験を、冷徹にまた「おかしく描きながら、あらためて、医者と患者の望ましい関係を考える、好エッセイ。	2000/8/28
21.	●	有	お	遅れた時計	中公文庫	1990.1	短編 水の音。駈落ち。笑窪。蜘蛛の巣。オルゴールの音。遺体引取人。遅れた時計。十字架。予備校生。歳末セール	2000/9/4
22.	●	有	か	海軍乙事件	文春文庫	1976.7	古賀連合艦隊司令長官飛行機行方不明、海軍乙事件、海軍甲事件、シンデモラツパオ。「海軍乙事件」調査メモ	
23.	●	有	か	下弦の月	文春文庫	1989.5	短編 下弦の月(鬼熊事件)ほか 海の奇蹟、驚、探す、十点鐘、動物園、炎と桜の記憶 大正末年、千葉の寒村で、痴情のもつれから連続殺人事件を起した犯人が、警察の捜査網をしり目に長期間逃走を続けた「鬼熊事件」に材を取った表題作ほか、引退したプロボクサーの奇妙な生涯を描く作品、戦時中、猛獣を殺害せねばならなかった動物園の悲劇など、この作家の幅広く、多彩な力量を示す七短篇。	2000/3/9
24.	●	有	か	敵かたきうち討	新潮社	2001.2	明治13年に最後の敵討ち(殺人罪)、敵討 最後の仇討	2001/9/26
25.	●	有	か	蟹の縦ばい	中公文庫	1993.7	小説家にとつての憩いとは何だろう。時には横ばいしない蟹のように仕事の日常を逸脱してみたい。だが、少年時代の記憶も旅の光景も酒場での会話も、いつかどこかで作品に結びつく。小説家であることからのがれることは難しいー真摯な作家の静謐でユーモラスなエッセイ集	2001/6/3
26.	●	有	か	神々の沈黙 一心臓移植を追ってー	文春文庫	1984.12	心臓移植ーこの生命の神秘への挑戦というべき手術は、技術的な越えがたい困難に加えて、人道的観点からの諸問題をはらみつつ、世界各国で数多く行われてきた。その試行錯誤の歴史を克明に追いながら、外科医師の野心と挫折、患者側の希望と苦悩、死の判定を巡る深刻な葛藤を浮き彫りにした感動のドキュメンタリー・ノヴェル。	2000/6/5
27.	●	有	か	仮釈放	新潮文庫	1991.11	浮気した妻を刺殺し、相手の男を刺傷し、その母親を焼殺して無期刑の判決を受けた男が、16年後に刑法にしたがって仮釈放された。長い歳月の空白をへた元高校教師の目にこの社会はどう映るか？己れの行為を必然のものと確信して悔いることのない男は、与えられた自由を享受することができるか？罪と罰のテーマに挑み、人間の悲劇の原型に迫った書下ろし長編小説。浮気した妻を刺殺し、相手の男を刺傷し、その母親を焼殺して無期刑の判決を受けた男が、16年後に刑法にしたがって仮釈放された。長い歳月の空白をへた元高校教師の目にこの社会はどう映るか？己れの行為を必然のものと確信して悔いることのない男は、与えられた自由を享受することができるか？罪と罰のテーマに挑み、人間の悲劇の原型に迫った書下ろし長編小説。	
28.	●	有	か	関東大震災	文春文庫	1977.8	大正12年9月1日、午前11時58分、大激震が関東地方を襲った。とくに東京、横浜などは、直後に発生した大火災にみまわれ、おびただしい焼死者を出した。が、悲劇はそれにとどまらなかった。天災は人災を呼び、様々な流言が飛び交って、深刻な社会事件を誘発してゆく。この未曾有の災害を克明に描き出した菊池寛賞受賞作。	2000/12/15
29.		有	か	患者さん	毎日新聞社	1974.11		
30.	●	有	き	消えた鼓動 一心臓移植を追ってー	筑摩書房	1986.6	医療だったのか、殺人だったのかー深い疑惑につつまれる「和田心臓移植事件」の全貌ー札幌を基点とし、南アフリカ、アメリカでも綿密な取材を背景に、犀利な作家の眼によって「事件」を克明に描きつつ、医師のモラルを告発し、人間性の所在を証言する迫真のドキュメント。	2009/2/27
31.	●	有	き	帰鑑セズ	文藝春秋	1988.7	鉢、白足袋、霞ふる、果物籠、銀杏のある寺、飛行機雲、帰鑑セズ	2001/1/25
32.	●	有	き	魚影の群	新潮文庫	1983.7	海の鼠、蝸牛、鵜、魚影の群れ 漁師房次郎は娘の登喜子に懇願されて、彼女の恋人俊一を不承不承船に乗せるが……。津軽海峡を舞台に、老練なマグロ釣りの孤絶な姿を描く表題作。四国の小島に異常発生した鼠と人間の凄絶な闘いの記録『海の鼠』。他に、美味の故に養殖される新種のカタツムリをめぐる滑稽な顛末『蝸牛』、名人気質の長良川の鵜匠の苦渋を描く『鵜』など、動物を仲立ちとした傑作小説四編を収録。	2001/6/13

NO.	読了	所有	索引	書名	出版社	出版年月	備考	読了日
33.	●	有	く	空白の戦記	新潮文庫	1981.4	艦首切断. 顛覆. 敵前逃亡. 最後の特攻機. 太陽を見たい. 軍艦と少年 闇に葬られた軍艦事故の恐るべき真相、「戦艦武蔵」の極秘設計図紛失事件の後日譚、悲しくも痛ましい沖縄決戦の秘話……。戦記文学に定評のある著者が、正史にのらない埋もれた戦争の真実を掘り起こして、巨大な戦争の陰の部分に生きた人間たちのドラマを追求する戦争秘録小説集。「艦首切断」「顛覆」「敵前逃亡」「最後の特攻機」「太陽を見たい」「軍艦と少年」の六編を収録。	
34.	●	有	く	鯨の絵巻	新潮文庫	1990.11	『海の絵巻』(昭和53年刊)の改題 紀州太地に三百年の歴史を持つ鯨組で、網とり漁法の最後の筆頭刃刺を務めた男の生涯を描きながら、勇壮華麗な鯨との闘いと、滅びゆく古式捕鯨にしか生きる場を持たない者の悲哀を鮮明に浮かび上がらせた「鯨の絵巻」。教職を剥奪され、奄美大島の夜の山地に青白い鱗の輝きを追うハブ捕獲人を描く「光る鱗」など、動物相手に生活を営む人間たちの哀歎をさぐる短編集。	2000/4/15
35.	●	有	く	熊(くまあらし)嵐	新潮文庫	1982.11	北海道天塩山麓の開拓村を突然恐怖の渦に巻き込んだ一頭の熊の出現！日本獣害史上最大の惨事は大正4年12月に起った。冬眠の時期を逸した熊が、わずか2日間に6人の男女を殺害したのである。鮮血に染まる雪、熊を潜める闇、人骨を齧る不気味な音……。自然の猛威の前で、なす術のない人間たちと、ただ一人沈着に熊と対決する老練な猟師の姿を浮彫りにする、ドキュメンタリー長編。北海道天塩山麓の開拓村を突然恐怖の渦に巻き込んだ一頭の熊の出現！日本獣害史上最大の惨事は大正4年12月に起った。冬眠の時期を逸した熊が、わずか2日間に6人の男女を殺害したのである。鮮血に染まる雪、熊を潜める闇、人骨を齧る不気味な音……。自然の猛威の前で、なす術のない人間たちと、ただ一人沈着に熊と対決する老練な猟師の姿を浮彫りにする、ドキュメンタリー長編。	
36.	●	有	く	熊撃ち	文春文庫	1993.9	「顔の横に熊の頭がのしかかっている。今にも自分の頭蓋骨が熊の逞しく鋭い歯でかみくだかれるような恐怖におそわれた」一人をあざむく知恵を持ち、飢えた時は人を襲って食らう獐猛で巨大な熊。北海道の厳しい大自然を背景に、猟師と熊の息づまる対決を実際に起きた事件に題材を取って描いた迫真の七篇。「顔の横に熊の頭がのしかかっている。今にも自分の頭蓋骨が熊の逞しく鋭い歯でかみくだかれるような恐怖におそわれた」一人をあざむく知恵を持ち、飢えた時は人を襲って食らう獐猛で巨大な熊。北海道の厳しい大自然を背景に、猟師と熊の息づまる対決を実際に起きた事件に題材を取って描いた迫真の七篇。	2000/7/5
37.	●	有	く	黒船	中央公論社	1994.6	オランダ通詞堀達之助 日本初の本格的英和辞書編纂	
38.	●	有	け	月下美人	講談社文庫	1990.1	月下美人. 沢蟹. 時計. 甲羅. 秋の虹. 夢の鉄道. 欠けた月. 冬の道月下美人. 沢蟹. 時計. 甲羅. 秋の虹. 夢の鉄道. 欠けた月. 冬の道 軍用機を爆破した元脱走兵を取材する「私」と、家族にも過去を語らず、苦悩の歳月を生きてきた男との魂の交流を、一夜のうちに咲き散る月下美人の花に託して描く表題作など、八編を収録。軍用機を爆破した元脱走兵を取材する「私」と、家族にも過去を語らず、苦悩の歳月を生きてきた男との魂の交流を、一夜のうちに咲き散る月下美人の花に託して描く表題作など、八編を収録。	
39.	●	有	こ	高熱隧道	新潮文庫	1975.7	黒部第三発電所—昭和11年8月着工、昭和15年11月完工。人間の侵入を拒みつづけた峻険な峡谷の、岩盤最高温度165度という高熱地帯に、隧道(トンネル)を掘鑿する難工事であった。犠牲者は300余名を数えた。トンネル貫通への情熱にとり憑かれた男たちの執念と、予測もつかぬ大自然の猛威とが対決する異様な時空を、綿密な取材と調査で再現して、極限状況における人間の姿を描破した記録文学。黒部第三発電所—昭和11年8月着工、昭和15年11月完工。人間の侵入を拒みつづけた峻険な峡谷の、岩盤最高温度165度という高熱地帯に、隧道(トンネル)を掘鑿する難工事であった。犠牲者は300余名を数えた。トンネル貫通への情熱にとり憑かれた男たちの執念と、予測もつかぬ大自然の猛威とが対決する異様な時空を、綿密な取材と調査で再現して、極限状況における人間の姿を描破した記録文学。	
40.	●	有	こ	孤独な噴水	講談社	1967.10	新人王をめざす若きプロ・ボクサーの孤独な戦い。暗い家庭を逃れてボクシング・ジムに通う(私)は、連戦連勝、やがて新人王の有力候補にのし上がり、小さなジムの期待の星となった。だがある日、心の支えだった恋人が何者かに暴行された。ボクシング界の内幕をえぐり、若者の愛と孤独を鮮烈に描く長編小説。 吉村昭の初めての長編	2001/5/22
41.		有	さ	細菌	講談社	1970		
42.	●	有	さ	再婚	角川文庫	1995.3	老眼鏡 男の家出 再婚 貸金庫 湖のみえる風景 青い絵 月夜の炎 夜の饗宴	2000/2/10
43.	●	有	さ	桜田門外ノ変(上/下)	新潮文庫	1995.4	水戸藩士 関鉄之介	

NO.	読了	所有	索引	書名	出版社	出版年月	備考	読了日
44.	●	有	さ	三陸海岸大津波 (原題 海の壁)	文春文庫	2004.3		2001/6/7
45.	●	有	し	史実を歩く	文藝春秋	1998.1	作家の史実への姿勢をつづった「取材ノート」	2001/8/30
46.	●	有	し	史実を追う旅	文春文庫	1991.2	鎖国の日本に憧れて単身渡米した変わった米国人、多数の犠牲者が出たトンネル工事の悲劇、脱獄の天才のこと、戦艦の自爆のなぞ、逃亡し続けた蘭学者の足跡、大老襲撃にひそむ真相。歴史の裏面に埋もれた事実を掘り起し、多くの傑作小説をものしてきた作家が、小説には書けなかったさまざまな秘話を披露する興味津々の随筆集鎖国の日本に憧れて単身渡米した変わった米国人、多数の犠牲者が出たトンネル工事の悲劇、脱獄の天才のこと、戦艦の自爆のなぞ、逃亡し続けた蘭学者の足跡、大老襲撃にひそむ真相。歴史の裏面に埋もれた事実を掘り起し、多くの傑作小説をものしてきた作家が、小説には書けなかったさまざまな秘話を披露する興味津々の随筆集	2000/9/13
47.	●	有	し	時代の声、史料の声	河出書房新社	2009.2	徹底した史料の読み込みで知られる記録文学の第一人者が、ノンフィクションと小説の関係など、記録と文学という問題意識をベースに、ボクシング小説体験、癌で逝った弟の話、東京の空襲の記憶などを語る対談集。	2009/10/7
48.	●	有	し	実を申すと	筑摩書房	1987.8	飲み屋に女房をつれて行ったら、おかみに愛人とまちがわれ大弱り…。釣竿を忘れて釣りに出かけそうになり…。人と人との出会いのふしぎ、旅の喜び、酒にまつわる哀楽など、こまかな日常の出来事のうちに、この世のからくり、人情の機微をたくみにとらえ、さわやかな味の、ちょっといい話をつづったエッセー集。	2000/10/22
49.	●	有	し	死顔	新潮社	2006.11	絶筆 ひとすじの煙 二人 山茶花 クレイスロック号遭難 死顔 吉村昭／著、遺作について 津村節子／著 生と死を凝視し続けた作家が、兄の死を題材に自らの死生観を凝縮し、死の直前まで推敲を続けた短篇。死の静謐を期し、延命措置への違和が表明されている。闘病と最期の刻を夫人が綴る「遺作について」を併録。	
50.	●	有	し	死のある風景	文藝春秋	1989.11	金魚、煤煙、初富士、早春、秋の声、標本、油蟬、緑雨、白い壁、屋形舟	2000/5/13
51.	●	有	し	事物はじまりの物語	筑摩ブリーマ	2005.1	江戸から明治、人々は苦勞して新しいものを取り入れ、初めてのものを作りだした。本書は解剖、スキー、石鹸など、歴史小説家が豊富な史料を駆使して書いた、パイオニアたちのとっておきの物語。	2009/1/15
52.	●	有	し	島抜け	新潮社	2000.8	講釈師 瑞龍の脱島(種子島)。島抜け、欠けた碗、梅の刺青	2003/3/16
53.	●	有	し	朱の丸御用船	文藝春秋	1997.6	江戸末期 難破御用船の米を略奪	2000/6/30
54.	●	有	し	殉国	文春文庫	1991.11	『陸軍二等兵比嘉真一』(筑摩書房1982年刊)の改題 「郷土を渡すな。全員死ぬのだ」太平洋戦争末期、沖縄戦の直前、中学生にガリ版ずりの召集令状が出された。小柄な十四歳の真一は、だぶだぶの軍服の袖口を折って、ズボンの裾にゲートルを巻き付け陸軍二等兵として絶望的な祖国の防衛戦に参加する。少年の体験を通して戦場の凄まじい実相を凝視した長編小説。「郷土を渡すな。全員死ぬのだ」太平洋戦争末期、沖縄戦の直前、中学生にガリ版ずりの召集令状が出された。小柄な十四歳の真一は、だぶだぶの軍服の袖口を折って、ズボンの裾にゲートルを巻き付け陸軍二等兵として絶望的な祖国の防衛戦に参加する。少年の体験を通して戦場の凄まじい実相を凝視した長編小説。	2000/6/26
55.	●	有	し	彰義隊	朝日新聞社	2005.11	彰義隊の精神的支柱であり「朝敵」の汚名を着せられた上野寛永寺山主の輪王寺宮能久親王。その知られざる苛烈な生涯を中心に、維新の真実に迫る壮大な長篇歴史小説。朝日新聞好評連載小説、待望の単行本化。	
56.	●		し	少女架刑	新潮社	1971	短編 (臼井吉見 評 一 名作)、少女架刑、白い道、星と葬礼、貝殻、墓地の賑い	
57.	●	有	し	昭和歳時記	文藝春秋	1993.11	昭和前期の下町、なつかしい情景。江戸期から明治・大正をへてきたさまざまな風俗・習慣、身ぢかな風物、暮しの中のいろんな品々は昭和三十年代初めのころまでは色濃く残っていた。昭和二年生れの著者が、それらすでに遠くすぎ去った過去の印象深い事柄を情感あふれる絶妙の筆致で綴る。好評を博した「東京の下町」姉妹篇。	2000/11/18
58.	●	有	し	白い遠景	講談社	1979.2	随筆集	2001/7/20
59.	●	有	し	白い航跡 (上/下)	講談社文庫		脚気予防法 海軍軍医高木兼寛(1849~1920)	
60.		有	し	白い道	岩波書店	2010.7	戦争に負けるということは白いことなのだ…。執筆のため徹底的な取材・調査で知られる作家が、その筆をかけて我々に問い続けてきたものとは。単行本初収録となるエッセイ・講演をめぐり、その歴史観の起源に迫る。	

NO.	読了	所有	索引	書名	出版社	出版年月	備考	読了日
61.	●	有	し	深海の死者	文春文庫	1986.4	太平洋戦争が勃発して間もない昭和17年4月22日未明、一隻の大型潜水艦が密かにマレー半島のペナンを出港した。三万キロも彼方のドイツをめざして…。大戦中、杜絶した日独両国を結ぶ連絡路を求めて、連合国の封鎖下にあった大西洋に、数次にわたって潜入した日本潜水艦の苦闘を描き、文藝春秋読書者賞を獲得した力作長編。	
62.		有	し	人生の観察	河出書房新社	2014.1	エッセイ集(没後に発行)	
63.			せ	精神的季節	講談社	1972.9		
64.	●	有	せ	背中の勲章	新潮文庫	1971		
65.	●	有	せ	戦艦武蔵	新潮文庫	1966.9	吉村昭が記録小説作家として産声をあげた作品 日本帝国海軍の夢と野望を賭けた不沈の戦艦「武蔵」- 歴大な人命と物資をただ浪費するために、人間が狂気的なエネルギーを注いだ戦争の本質とは何か? 非論理的「愚行」に邁進した「人間」の内部にひそむ奇怪さとはどういうものか? 本書は戦争の神話の象徴である「武蔵」の極秘の建造から壮絶な終焉までを克明に綴り、壮大な劇の全貌を明らかにした記録文学の大作である。	
66.	●	有	せ	戦艦武蔵ノート(作家のノートⅠ)	文春文庫	1985.8	戦艦武蔵ノート・城下の夜・下士官の手記・消えた「武蔵」ふとしたことから、「大和」と並ぶ史上最大の戦艦「武蔵」に興味を抱いた著者は、これを書くことで戦争という異常な状態を解明する糸口をつかめないか、と考える。取材を通してのさまざまな邂逅、対象を追いつめてゆく過程など、一つの転機となる作品を生み出すまでの作家の内側を活々と描いた優れた記録文学。	2001/2/23
67.	●	有	せ	戦史の証言者たち	文春文庫	1995.8	「戦艦武蔵」「深海の使者」といった多くの戦記文学の名作を創作した著者が、その緻密な取材の課程で出会った体験者ならではの貴重な証言を生々の声で再現し解説する。巨大戦艦の進水の秘話、連合艦隊司令長官の戦死とそれにまつわる隠された事実、沈没した潜水艦の悲劇とその引き揚げ時に現出した奇蹟等、驚くべき真実の数々。	2000/4/23
68.	●	有	そ	総員起シ	文春文庫	1980.12	短編 戦史小説 五篇、海の樞、総員起シ、鳥の浜	2000/8/7
69.		有	そ	その人の思い出	河出書房新社	2011.1	忘れえぬ人の記憶	
70.	●	有	た	大黒屋光太夫.(上/下)	新潮社	2003	大黒屋 光太夫(1751~1828) 若き水主・磯吉の人間臭さのにじみ出た生々しい陳述記録をもとに紡ぎだされた、まったく新しい大黒屋光太夫の漂流譚。絶望的な状況下にも希望を捨てず、ひたむきに生きた男たちの感動の物語。	
71.	●	有	た	大本営が震えた日	新潮文庫	1981.11	昭和16年12月1日午後5時すぎ、大本営はDC3型旅客機「上海号」が行方不明になったとの報告を受けて、大恐慌に陥った。機内には12月8日開戦を指令した極秘命令書が積まれており、空路から判断して敵地中国に不時着遭難した可能性が高い。もし、その命令書が敵軍に渡れば、国運と賭した一大奇襲作戦が水泡に帰する。太平洋戦争開戦前夜、大本営を震撼させた、緊迫のドキュメント。	
72.	●	有	た	脱出	新潮文庫		脱出。焔髪。鯛の島。他人の城。珊瑚礁 昭和20年夏、敗戦へと雪崩れおちる日本の、辺境ともいべき地に生きる人々の生き様を通し、<昭和>の転換点を見つめた作品集。突然のソ連参戦で宗谷海峡を封鎖された南樺太の一漁村の村人の、危険な脱出行を描く表題作。撃沈された沖繩からの学童疎開船・対馬丸に乗船していた一中学生の転変をたどる「他人の城」。東大寺の仏像疎開作業に従事する僧侶と囚人たちをめぐる「焔髪」など5編。	
73.	●	有	ち	長英逃亡(上/下)	新潮文庫	1989.9	高野長英(1804~1850)	
74.	●	有	つ	月夜の記憶	講談社		『精神的季節』(昭和47年刊)から、対談1編と、『作家のノート』Ⅰ・Ⅱ(文春文庫)に収録された随筆7編を除いたもの 年譜:p314~322 『杉田玄白訳』の不思議]:p101	2000/7/27
75.	●	有	つ	月夜の魚	中公文庫	1990.9	短編(様々な死の光景を描く) 行列。螢籠。夜。海。黒い蝶。月夜の魚。弱兵。雪の夜。位牌。干潮。指輪。改札口	2001/2/3
76.	●	有	つ	冷い夏、熱い夏	新潮文庫	1990.6	何の自覚症状もなく発見された胸部の白い影一強い絆で結ばれた働き盛りの弟を突然襲った癌にたじろぐ「私」。それが最悪のものであり、手術後一年以上の延命例が皆無なることを知らされた「私」は、どんなことがあっても弟に隠し通すことを決意する。激痛にもたえ人間としての矜持を失っていく弟…。ゆるぎない眼でその死を見つめ、深い鎮魂に至る感動の長編小説。毎日芸術賞受賞。	

NO.	読了	所有	索引	書名	出版社	出版年月	備考	読了日
77.	●	有	て	亭主の家出	文春文庫	1978.9	私は当年42歳、今や働さざり、花も実もある中年のまっただ中。といいたいが、ひとたびその目を転ずれば、くたびれ始めた女房となまいき盛りの子供に無視されて朝は誰よりも早く起き、メン抜きで出勤、遅く帰ればやっぱりメンがない。金もなければ、女にもてるわけでもない。これでは家出のひとつも……。ユーモア長篇小説。	2000/9/30
78.	●	有	て	天狗争乱	新潮文庫	1997.7	天狗党	
79.	●	有	て	天に遊ぶ	新潮社	1999.5	鱧紙 同居 頭蓋骨 香奠袋 お婆さん 梅毒 西瓜 読経 サーベル 居間にて 刑事部屋 自殺 心中 鯉のぼり 芸術家 カフェー 鶴 紅葉 偽刑事 観覧車 聖歌 吉村昭／著、解説 清原康正／著	2001/4/18
80.	●	有	と	東京の下町	文春文庫	1989.1	回想の下町、興味あふれる風物詩。夏祭り、映画館、火事、物売り、正月、演芸、大相撲、さまざまな食物、街の事件あれこれ……。昭和二年生れの著者が幼少年期を過した、大都会の中のなつかしいふるさと、日暮里。そこで紡いだ想いの数々を愛惜の念をこめて綴ると共に、戦前の庶民の生活を生き生きと描き出した好エッセイ。	2000/11/2
81.	●	有	と	東京の戦争	筑摩書房	2001.7	物干台で風を揚げていて遭遇した東京初空襲の米軍機。戦中にも通った客席。汽車に乗って中学生の一人旅…。60年の時を超え鮮やかによみがえる戦中・戦後の熱い記憶。吉村昭、初めての回想記。	
82.	●	有	と	逃亡	文春文庫	1978.4	海軍航空隊 飛行機爆破 脱走	
83.	●	有	と	遠い幻影	文藝春秋	2000.12	梅の蕾 吉村昭／著 青い星 吉村昭／著 ジングルベル 吉村昭／著 アルバム 吉村昭／著 光る藻 吉村昭／著 父親の旅 吉村昭／著 尾行 吉村昭／著 夾竹桃 吉村昭／著 桜まつり 吉村昭／著 クルージング 吉村昭／著 眼 吉村昭／著 遠い幻影 戦死した兄の思い出を辿るうち、胸に呼び起こされたある不幸な事故の記憶。過去に埋もれた出来事を追い求める表題作ほか、浮気調査を任された大学生が意外な現実を目の当たりにする「尾行」、夫と子を捨てて別の男と失踪した娘を連れ戻しに行く「父親の旅」など、人生の一瞬の揺らぎを捉えた十二の傑作短編集。	
84.	●	有	と	遠い日の戦争	新潮文庫	1984.7	終戦の詔勅が下った昭和20年8月15日、福岡の西部軍司令部の防空情報主任・清原琢也は、米兵捕虜を処刑した。無差別空襲により家族を失った日本人すべての意志の代行であるとも彼には思えた。だが、敗戦はすべての価値観を逆転させた。戦犯として断罪され、日本人の恥と罵られる中、暗く怯えに満ちた戦後の逃亡の日々が始まる。戦争犯罪を問い、戦後日本の歪みを抉る力作長編。	2000/2/12
85.	●	有	と	海(トド)馬	新潮文庫	1992.6	動物小説集 間にひらめく／映画「うなぎ」(今村昌平監督)原作。研がれた角。蛍の舞い。鴨。銃を置く。凍った眼。海馬	2000/4/9
86.		有	な	七十五度目の長崎行き	河出書房新社	2009.8	単行本未収録エッセイ集、最後の紀行文集	
87.	●	有	な	生麦事件 (上／下)	新潮社	1998.9		
88.	●	有	に	ニコライ遭難	新潮文庫	1996.11	大津事件	
89.	●	有	に	虹の翼	文春文庫	1983.9	その模型「飛行器」は少しばかり助走をすると、ふわりと地を離れ、五間飛んで雑草の上に落ちた…。ライト兄弟が世界最初の飛行機を飛ばす12年前の明治24(1891)年、だれもが空を飛ぶことなど夢だと信じて疑わなかったころ。独自の構想で航空機を考案した26歳の若者、二宮忠八。ひたすら空に憧れた情熱の男の生涯。	2001/5/18
90.	●	有	に	日本医家伝	講談社	1971	日本初の人体解剖を行った山脇東洋、「解体新書」の翻訳という偉業を達成した前野良沢、日本で最初の種痘法をロシヤ抑留中に習得した中川五郎治、ドイツ医学採用に狂奔し晩年は悲惨だった相良知安、自らの屈辱感をバネに医学の道を進んだ荻野ぎん等、近代医学の先駆者十二人の苦難の生涯をえがく。	2009/3/19
91.	●	有	の	蚤と爆弾	文藝春秋	1989.8	ハルピンでの細菌兵器開発 曾根二郎	2000/5/22
92.	●	有	は	幕府軍艦「回天」始末	文藝春秋	1993.12	明治二年三月二十五日の夜明け、宮古湾に碇泊している新政府軍の艦隊を旧幕府軍の軍艦「回天」が襲った。箱館に立てこもった榎本武揚たちは、次第に追い詰められてゆく状況を打開しようと、大胆な奇襲に賭けたのであった。歴史に秘められた事実を掘り起し充実した筆致で描いた会心の長篇歴史小説。	
93.	●	有	は	破獄	新潮社	1991.7	昭和11年から22年まで、犯罪史上未曾有の4度の脱獄を実行した無期刑囚・佐久間清太郎。その緻密な計画と大胆な行動力、超人的ともいえる手口を、戦中・戦後の混乱した時代背景に重ねて入念に追跡。	
94.	●	有	は	破船	新潮文庫	1992.6	「海流」の加筆、改題	

NO.	読了	所有	索引	書名	出版社	出版年月	備考	読了日
95.	●	有	は	花渡る海	中公文庫	1988.9	シベリア漂着 日本最初の種痘法 水主久蔵	
96.	●	有	は	礫(はりつけ)	文春文庫	1975	短編集 礫, 三色旗, コロリ, 動く牙	2000/12/25
97.	●	有	は	光る壁画	新潮文庫	1984.11	胃カメラの開発	2000/2/25
98.	●	有	ひ	罷	新潮文庫	1985.7	短編集 罷, 蘭鑄, 軍鶏, 鳩, ハタハタ	2000/2/1
99.	●	有	ひ	彦九郎山河	文春文庫	1998.9	高山彦九郎(1747~1793) 尊王攘夷論者、旅行家	
100.		有	ひ	ひとり旅	文藝春秋	2007.7	最後の著作物(エッセー) 昨年、惜しまれつつ亡くなった著者の珠玉のエッセイと、名作『桜田門外ノ変』や『生麦事件』の創作秘話を収録したファン待望の1冊。余計なフィクションを加えない創作姿勢を貫いた、最後の随筆集。	
101.	●	有	ひ	漂流	新潮文庫	1989.9	江戸・天明年間、シケに遭って黒潮に乗ってしまった男たちは、不気味な沈黙をたもつ絶海の火山島に漂着した。水も湧かず、生活の手段とてない無人の島で、仲間の男たちは次々と倒れて行ったが、土佐の船乗り長平はただひとり生き残って、12年に及ぶ苦闘の末、ついに生還する。その生存の秘密と、壮絶な生きざまを巨細に描いて圧倒的感動を呼ぶ、話題の長編ドキュメンタリー小説。	
102.	●	有	ひ	漂流記の魅力	新潮社	2003.4	奥州石巻を出港し、難破してロシアに漂着した「若宮丸」の乗組員たち。10年の辛苦に耐え、日本人として初の世界一周をなしたけた彼らの記録『環海異聞』を中心に、数々の漂流記の魅力に迫る。	2008/11/19
103.	●	有	ふ	ふおん・しいほととの娘(上/下)	新潮文庫	1993.3		
104.	●	有	ふ	冬の海 私の北海道取材旅行	筑摩書房	1980.5	罷について-「熊撃ち」と「罷嵐」 連合艦隊出撃の日-「大本営が震えた日」 五寸釘寅吉-「赤い人」 小笠原丸の沈没-「烏の浜」 偽造紙幣と観音像-「赤い人」余聞 冬の海-「烏と稗藻」余話 手のない遺体-「海の枢」 中川五郎治について-「北天の星」	
105.	●	有	ふ	冬の鷹	新潮文庫	1976	伝記 前野良沢【解体新書】	
106.	●	有	ふ	ブリズンの満月	新潮社	1998.8	刑務官鶴岡	
107.	●	有	へ	平家物語	講談社	1992	平家一門の興亡を鮮やかに描く一大叙事詩。平家の興隆と清盛の専横。しかし、その栄華も長くはなかった…。平家の興亡を描いた名作が、名手・吉村昭の新訳でよみがえる。これ1冊ですべて読める平家物語。	2002/6/24
108.	●	有	ほ	帽子	文藝春秋	1990.2	帽子。買い物籠。牛乳。踏切。朝食。歩道橋。奇妙な旅。雪の日。黒いリボン 約束してよ。死ぬ前にこの帽子をかぶってドライブすることを……。癌で死をまぢかにした妻が、床の中で夫に買って来て貰った帽子の幅広いツバを細い指で撫でながらいった。そして、二人がドライブする日は。日常生活に材を取り、人情の機微を捉えて、短篇小説の名手が紡いだ九つの佳品。	2000/9/19
109.	●	有	ほ	法師蟬	新潮社	1996.6	短編 人生の秋を迎えた男たちの心象 海猫 吉村昭/著 チロリアンハット 吉村昭/著 手鏡 吉村昭/著 幻 吉村昭/著 或る町の出来事 吉村昭/著 秋の旅 吉村昭/著 果実の女 吉村昭/著 法師蟬 吉村昭/著 銀狐 吉村昭/著	2000/5/11
110.	●	有	ほ	北天の星(上/下)	講談社	1980.3	日本最初の種痘術を伝えた中川五郎治	2001/5/11
111.	●	有	ほ	星と葬礼	文春文庫	1992.5	服喪の夏、煉瓦塀、水の匂い、さよと僕たち、墓地の賑い、キトク、青い街、星と葬礼 町に葬儀があればかならず次郎の姿があった。知恵遅れの一六歳の孤独な少年のたのしみは埋葬時に使う鍬をかついで葬儀に参加することと星を見つけることだった。不幸な少女時子と少年のほのかな心のふれあいの果てに来たものは。酷薄な現実の中でのふしぎな魂のゆらぎを鋭い感覚で捉えた表題作ほか秀作七篇。	2000/6/15
112.	●	有	ほ	星への旅	新潮文庫	1974	中編 太宰治賞受賞作	2001/1/12
113.	●	有	ほ	螢	中公文庫	1989.1	休暇、眼、霧の坂、螢、時間、光る雨、橋、老人と柵、小さな欠伸	
114.	●	有	ほ	ポーツマスの旗 外相小村寿太郎	新潮文庫	1979.12	小村寿太郎	
115.	●	有	ほ	炎の中の休暇	新潮文庫	1986.7	短編 自伝的連作小説集	2000/8/23
116.	●	有	ま	街のはなし	文春文庫	1999.9	「私には、妙な性癖がある。(中略)一度見た人の顔を、月日がたっても不思議に覚えている」作家の眼差しが、温かく、時に厳しく人々に注がれる。街でよく見かける”ころび癖”のある女性、年々逞しさを増す妻と弱々しくなっていく夫、カメラを異常に意識する女優…。ユーモア溢れる極上エッセイ79編。	2000/5/22
117.		有	ま	真屋の花火	河出書房新社	2010.2	単行本未収録作品集	
118.	●	有	ま	間宮林蔵	講談社	1987.1		

NO.	読了	所有	索引	書名	出版社	出版年月	備考	読了日
119.		有	ま	回り灯籠	筑摩書房	2006.12	「この世を飛び去るに及んできれいに死を迎えたい」。自らが描き続けてきた歴史上の人物のように、潔く死と向きあった作家。死生観や取材の思い出などを綴った、最後の連載随筆を1冊にまとめる。	
120.	●	有	ま	万年筆の旅(作家のノートⅡ)	文春文庫	1986.8	裏話集	2009/1/13
121.		有	み	見えない橋	文春文庫	2005.7	見えない橋 都会 漁火 消えた町 夜光虫 時間 夜の道 吉村昭／著 刑務所に36回も服役した男、投身自殺した遺体をひきあげる漁師、がんで死んだ母親…。人間の生と死のドラマを静謐な筆致で、それでいて鮮やかに描き出した7話を収録した珠玉の短篇集。	
122.	●	有	み	水の葬列	新潮文庫	1992.9	短編集	
123.	●	有	み	密会	講談社文庫	1989.5	密会. 動く壁. 非情の系譜. 電気機関車. めりーごーらうんど. 目撃者. 旅の記憶. ジジヨメ食った. 橋円の柩. 年譜:p282~290 夜の林の間の底で、彼女は興奮のすぎさった後のけだるい体を横たえていた。大学教授夫人・紀久子が夫の教え子である学生との密会中に起った、思いもかけぬ殺人事件。女の心の中に渦巻く生々しい情念をミステリー・タッチで描く「密会」ほか、「動く壁」「目撃者」など、「男と女」を描く名短編九編を収録。	
124.	●	有	み	蜜蜂乱舞	新潮文庫	1987.4		
125.	●	有	む	陸奥爆沈	新潮文庫	1993.1		
126.	●		め	めっちゃ医者伝	新潮社	1971.11		2009/6/24
127.	●	有	め	メロンと鳩	文春文庫	1998.4	メロンと鳩. 鳳仙花. 苺. 島の春. 稗藻. 風. 高架線. 少年の夏. 赤い月. 破魔矢. 年譜:p244~252 「生と死」をドラマチックに描く短編小説集。処刑を目前にした死刑囚と面接委員との心の交流を鮮やかに描いた「メロンと鳩」、毎月数十人もの自殺者が飛びこむ断崖をひかえた村を舞台に「その瞬間、を警察官の子供の眼からとらえた「島の春」など、吉村昭の多彩な小説世界のエッセンス十編を収録する。	2000/10/7
128.	●	有	や	闇を裂く道	文春文庫	1990.7	丹那トンネルは大正7(1918)年に着工されたが、完成までになんと16年もの歳月を要した。けわしい断層地帯を横切するために、土壌の崩落、凄まじい湧水などに阻まれ多くの人命を失い、環境を著しく損うという当初の予定をはるかに上回る難工事となった。人間と土と水との熱く長い闘いを描いた力作長篇小説。	
129.	●	有	や	雪の花	新潮文庫	1988.4	天然痘 町医 笠原良策. 子供向け「めっちゃ医者伝」を大人向けに改稿	
130.	●	有	よ	夜明けの雷鳴 医師高松凌雲	文藝春秋	2003.1	幕末 医師高松凌雲(1836~1916)の生涯／箱館戦争	2000/9/6
131.		有	よ	吉村昭が伝えたかったこと	文藝春秋	2011.9	東日本大震災の年に発行された	
132.		有	よ	吉村昭 矜持ある人生	小説新潮	2007.4	吉村昭 矜持ある人生(p12~p82) 新発見エッセイ:「わたしの普段着」2篇掲載／追悼鼎談:瀬戸内寂聴×津村節子×大河内昭爾／名作紀行「破獄」「熊嵐」の北海道へ:佐々木謙／大アンケート人生が変わる「吉村昭この一冊」	
133.	●		よ	吉村昭自選作品集 第1巻	新潮社	1990.1	死体 青い骨 さよと僕たち 鉄橋 服喪の夏 少女架刑 星と葬礼 墓地の賑い 透明標本 電気機関車 背中の鉄道 煉瓦塀 キトク 星への旅	
134.	●		よ	吉村昭自選作品集 第2巻	新潮社	1990.11	戦艦武蔵 陸奥爆沈 艦首切断 顛覆	
135.	●		よ	吉村昭自選作品集 第3巻	新潮社	1990.12	背中の勲章 逃亡 海の樞 総員起シ	
136.	●		よ	吉村昭自選作品集 第4巻	新潮社	1991.1	深海の使者 鳥の浜 海軍乙事件	
137.	●		よ	吉村昭自選作品集 第5巻	新潮社	1991.2	高熱隧道 赤い人 船長泣く 焰髪	
138.	●		よ	吉村昭自選作品集 第6巻	新潮社	1991.3	海の史劇	
139.	●		よ	吉村昭自選作品集 第7巻	新潮社	1991.4	ポーツマスの旗 破船	
140.	●		よ	吉村昭自選作品集 第8巻	新潮社	1991.5	長英逃亡	
141.	●		よ	吉村昭自選作品集 第9巻	新潮社	1991.6	海の祭礼 磯 コロリ 欠けた腕	
142.	●		よ	吉村昭自選作品集 第10巻	新潮社	1991.7	冬の鷹 海も暮れる	
143.	●		よ	吉村昭自選作品集 第11巻	新潮社	1991.8	熊嵐 ハタハタ 熊 海の鼠 魚影の群れ 海馬	
144.	●		よ	吉村昭自選作品集 第12巻	新潮社	1991.9	遠い日の戦争 破獄	
145.	●		よ	吉村昭自選作品集 第13巻	新潮社	1991.1	冷い夏・熱い夏 仮釈放	
146.	●		よ	吉村昭自選作品集 第14巻	新潮社	1991.11	身延線 行列 風 苺 破魔矢 初富士 月下美人 炎のなかの休暇 蜻蛉 虹 黄水仙 青い水 炎天 白い米 鯨釣り 沢蟹 欠けた月 冬の道 白い壁 飛行機雲 標本 油蟬 緑雨 煤煙 屋形舟	
147.	●		よ	吉村昭自選作品集 第15巻	新潮社	1991.12	水の葬列 他人の城 休暇 月夜の魚 メロンと鳩 少年の夏 島の春 鳳仙花 雲母の柵 帰郷 脱出 さそり座 霞ふる 鉄 白足袋 チロリアンハット	
148.	●		よ	吉村昭自選作品集 別巻	新潮社	1992.1	東京の下町 エッセイ選 自筆年譜 著書目録 著作年表	
149.			よ	吉村昭自選短編集	読売新聞社	1978.1	海の樞. ハタハタ. 螢. 少女架刑. 海の奇蹟. さよと僕たち. 鉄橋. 煉瓦塀. コロリ. 九篇の短篇小説と私一巻末エッセイ 吉村昭の横顔 大河内昭爾著	

NO.	読了	所有	索引	書名	出版社	出版年月	備考	読了日
150.	●	有	ら	落日の宴 勅定奉行 川路聖謨	講談社	1999.4	勅定奉行 川路聖謨(1801～1868)	
151.	●	有	り	旅行鞆のなか	文藝春秋	1992.8	エッセー	2000/7/9
152.		有	り	履歴書の代わりに	河出書房新社	2011.6	吉村昭の世界を一冊に。単行本未収録エッセイ集	
153.	●	有	れ	零式戦闘機	新潮文庫	1978.3	世界のトップレベルの性能を一挙に実現して、空の作戦に革命をもたらした《ゼロ戦》は、日本帝国海軍が総力を結集して完成した最新鋭機であり、その劇的な運命は、太平洋戦争の盛衰と軌を一にしている…。本書は、その秘密裡の誕生から、幾多の輝かしい戦歴、敗亡の悲運を、設計者・技師・空の勇士の奮闘と哀歎のうちに綴って、名著『戦艦武蔵』と比肩する長編記録小説である。	
154.	●	有	れ	歴史の影絵	中公文庫	1984.1	短編(漂流民長平、種痘術中川五郎治、シホルの娘イネ等)	2000/3/23
155.	●	有	れ	歴史の記録者	河出書房新社	2008.2	文藝別冊 うまい地酒との出会い、津村節子、七人の獵師と七つの物語	
156.	●	有	れ	歴史を記録する	河出書房新社	2007.12	桜田門外の変、雪は何時に止んだのか。高野長英の逃亡経路は…。史料を徹底的に調べ、現地に何度も足を運ぶ。そうして生まれた吉村文学の舞台裏。記録文学・歴史文学の第一人者が初めて語った、貴重な歴史の証言。	2009/
157.	●	有	わ	わが心の小説家たち	平凡社新書		森鷗外／志賀直哉／川端康成／梶井基次郎／太宰治／林芙美子他	2001/2/9
158.		有	わ	わたしの取材余話	河出書房新社	2010.4	単行本未収録エッセイ集	
159.	●	有	わ	私の好きな悪い癖	講談社	2003.11	エッセー	2001/3/31
160.	●	有	わ	私の引出し	文藝春秋	1993.3	小説を書くために、全国に取材の旅を続けていると、印象ぶかい出会いがあったり、思いがけない事実につづかたりする。また、ふとしたはずみに思い出した遠い過去や身近にあったゆかいな話、お酒や食べ物についての逸話など、筆者の引出しにぎっしりつまったさまざまなエピソードのなかからとくに選び出した興味津津の66話。	2000/7/1
161.	●	有	わ	わたしの普段着	新潮社	2007.4	新発見エッセイ 恩師から頂戴した一幅の墨絵、未練をかなぐり捨てて処分する小説の資料、旅先で食べる朝のうどん…。日常を平穩に暮らし、悠々自適、いつも心に普段着を着て生きる著者の珠玉の最新随筆集。	2009/
162.	●	有	わ	私の文学漂流	新潮文庫	1995.4	文学的自伝	2000/7/13
163.	●	有	わ	わたしの流儀	新潮社	1998.5	エッセー	2001/3/12
164.								
165.								
166.								

読了 所有
143 141 冊

未読 20.

吉村昭に關係する、津村節子の著作

	●	有		三陸の海	講談社	2015.11	吉村昭の奥様津村節子が、東日本大震災の1年後に田野畑村を訪問し、その時の取材を基に、津村節子が著わす。吉村昭がなぜ田野畑村を愛したかについても触れている。また田野畑村を理解するのも非常に役立つ。	2017/6/13
		有		紅梅	文藝春秋	2011.7	吉村昭との最期の日々	
		有		夫婦の散歩道	河出書房新社	2012.12	夕暮れの公園、書齋の窓、旅の空— 喜びと悲しみのほざまに、蘇る夫の姿	
	●	有		さい果て	文春文庫	1994.11	玩具 芥川賞受賞作	2017/7/1
		有		私の歩んだ道	福井新聞社			
				ふたり旅				
				遍路みち				